

STEM REPORT コスモ PA 2021.12.26 SUN

12月26日（日）、コスモサイエンスコース1年生 第6回PAとして
土壌・植生に関する観察・実習「豊田市自然観察の森」を実施しました。

例年、8月に実施しているこの研修。延期によって冬の実施となりました。折しも寒波の到来でシーズン1の寒さの中、日本土壌肥料学会の岡村穰先生、渡邊健史先生、瀧勝俊先生に「環境科学」をテーマにご指導いただきました。

研修は「土の基礎」の講義から始まりました。土の多くの役割、土壌の形成にかかる長い時間、場所によって異なる土壌…土の成り立ち・機能を知ることが人類にとって必要なこと。SDGsの達成にもつながる、という気づきが生まれました。その後「フィールドワーク」。豊田市自然観察の森は、南向き斜面と北向き斜面・湿地・山頂で異なる多様な植生が観察されます。植生とともに土壌も多様です。団粒、微生物の種類、鉄分の型など、植生と土壌との有機的な関係を知ることができました。



受講生の声：1cmの土ができるのに100年もかかる、ということを知って、地球における時間のスケールの大きさを思い知った。

土や自然は人間を必要としないが、人間は土も自然も必要としている。使い方を考えなければいけない。

小さい頃、土遊びをしたら手を洗えと言われたが、土1gにバクテリアが1億いるからだ、と納得した。

土壌が炭素を貯蔵する、カーボンニュートラルについて土壌の視点で考えるのは初めてだった。

針葉樹と広葉樹では育て方が違う、というのが意外だった。針葉樹は大きくなり続け、節のできるところまでが木材になる。広葉樹は20～30年で切り、切り株から芽が出るようにしてやる。

鉄が二価か三価かでこんなにも土壌の色が変わるのか、と疑問に思った。